

問 4 - 2 誰と接したか【「その他」の回答】

- ・ 仕事を探している人
- ・ 勤務先の利用者
- ・ 勤務先の同僚
- ・ 勤務先の生徒
- ・ 仕事上で関わる
- ・ お客様
- ・ 子どもの通う幼稚園にいるお子さん
- ・ 窓口に来庁される方
- ・ 業務上支援をするために関わりました

問 5 - 1 障がいに関することを見聞きした媒体（1年以内）【「その他」の回答】

- ・ ラジオ
- ・ 国会中継
- ・ 市役所内掲示板
- ・ 仕事と学校
- ・ 病院、デイケア、ラジオ
- ・ 家族なので一緒に過ごすのが常で、情報も日常です

問 7 - 2 どのような場面か【「その他」の回答】

- ・ まちなか
- ・ 障害のあるかたと接した事がない人
- ・ 恋愛や結婚、子どもを産み育てること
- ・ SNSでの誹謗中傷
- ・ 見えない心の壁があると思います
- ・ 国民全体の意識
- ・ 通りすがりの人

問10-1 合理的配慮を浸透させる（広める）方法【「その他」の回答】

- ・配慮が必要なことが分かるようにすること（嫌がる人もいると思うので）
- ・条例を定める
- ・事業者負担に対する補助やインセンティブがあれば、導入を検討する事業者が増えると思います。また、ある程度のパターン化がされると、「この場合はこうすればよい」と判断しやすくなると思います。
- ・合理的配慮を組み込んだテレビドラマ等、とっつきやすい切り口。
※1年くらい前、視覚障害のある女性の恋愛ドラマがやっていたはず…
- ・行政が率先してインクルーシブな場や環境を作る
- ・配慮には限界があるので、できる範囲でするしかない。特に方法はなくて、お互いに理解しなければいけないと思う。
- ・小学校で教えるのもアリだと思う
- ・健常の人と障がいのある人は、線引きできるものではありません
スペクトラムにグレーなものだと思います
この考えが身に付けばいいのではないかと思います
- ・国や地方自治体が例を示し、率先して合理的な配慮をしていくことが必要（実際、官公庁で合理的な配慮がなされていないという問題提起があったと記憶しているので、まずは発信者側の意識改革が必要）
- ・講演会。障がい者と共に行動するイベント
- ・自分自身、または身近な人に合理的配慮が必要にならないと、健常者自身にも心の余裕がない状況では浸透するのに時間がかかると思う。
- ・小学生からの教育
- ・インクルーシブ教育や障害者雇用を進め、障害者と接する機会を増やし身近な問題だという意識を持たせること

問1 1 - 1 障がいのある方と一緒に働くこと【「その他」の回答】

・合理的配慮の先にあるのは、障がいは本人の個性ととらえその個性と社会がどのように向き合うかにある。生きづらさを感じたとしたら、どうすれば乗り越えていけるのかを解消できる方法を共に考えることから始まるのだと思います。配慮する、配慮されるだけに捕らわれることなく相互に補完し合うことのできる社会になることを望みます。

問1 2 - 2 着用者への声掛け、手助け【「その他」の回答】

- ・横断歩道でのこえかけ
- ・ヘルプマークはなかったが耳の不自由な方に筆記で対応したことはある。
- ・公共交通機関で席を譲った。
- ・駅のホームで何かを探していらっやっている様子だったので、何かお探しですかとお声かけをした。（エレベーターを探されていた方でした。）
- ・駅で迷っていたので、声掛けし案内をした。
- ・困っている様子があったときに声をかけ、情報のサポートをした。
- ・電車の乗り降り
- ・身体なのか精神・知的なのか分からない状態だったが、困ってそうな人に「何か手助けできることはありますか」と何度か聞いて助けた。
- ・駅ホームでの誘導
- ・改札まで手を貸した。声をかける等。
- ・困ってる様子だったので、なにかお手伝い出来ることは、ありますか？と、声をかけた
- ・お手伝いしましょうか？白杖者へ声をかけた
- ・公共交通の乗り降りの際介助をした
- ・困っている時に声をかけて手助けをする
- ・商品についているベルマークを学校に提出した
- ・その場面に出くわしたことがない。

問15-1 虐待を確認した際の市虐待防止センターへの通報【「その他」の回答】

- ・家族等の支援者の悩みに寄り添う制度があれば、虐待の防止に繋がると思われる。
- ・虐待という言葉のインパクトは一般人にとってはとても強く感じます。通報するにも勇気がいります。通報したときに優しく聴いてくださると、通報してよかったんだと感じる事ができます。

問16-1 障がいの「ある」「なし」にかかわらず、ともに生きる社会を実現するための手法【「その他」の回答】

- ・まずは教育者が理解を深められる機会を増やすことが重要だと思われる。
- ・障がいがあっても無くても、幼少期からあたりまえと一緒に過ごしていれば、障がいというくくりではなく、1人の持つ個性として周囲が認識できるし、本人も周囲に助けを求めることに引け目を感じることなく互いに補完し合うことができる社会になるのではないのでしょうか

問18-1 回答のきっかけ【「その他」の回答】

- ・亡くなった父親が障害者だったから
- ・神奈川県や茅ヶ崎市の障害者福祉に関する取り組みが他県他市に比べ大変遅れていると思うから。掛け声ばかりで、政策や率先して取り組む姿勢がまったく見えない。
- ・茅ヶ崎市役所での待ち時間にお茶をしていた時に、テーブルにアンケートのQRコードがあり、回答を頼まれたから。

問19-1 アンケートを知った媒体【「その他」の回答】

- ・Cafe .com
- ・市職員（職場内の案内など）